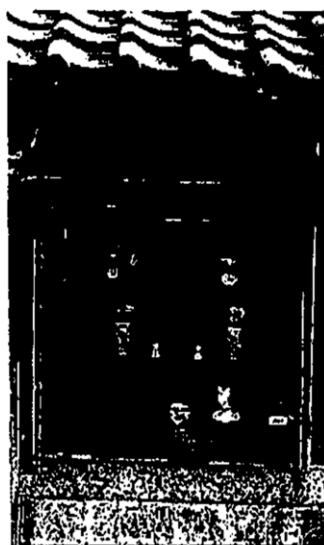


時の流れの生き証人



頼尊地蔵

御領一丁目

御領一丁目の西福寺の南側に地蔵堂があり、半肉彫りの地蔵が安置されている。像の両側に刻まれた文字から頼尊越後助という人物が、永禄元（一五五八）年八月に、生きているうちに

自分の死後の冥福を祈るためにお経を千回読んだことを記念して建てられたものであり、この意味では全く個人的な信仰を記念するものと考えられる。永禄元年は三好長慶が室町幕府の重臣として畿内を



時の流れの生き証人

千手観音像

新田東本町



新田大衆堂のなかには、役行者像を中央に、向かってその左側に千手観音像、右に不動明王像が安置されている。千手観音は、手が千本、目が千個の観音であることから一般に千手観音と呼ばれる。この観音は、人間をはじめ、すべての生物を救い利益を与えるために千本の手を持つており、その力のおよぶ範囲は広大であるとされている。体に千本の手と千個の

目を備えているのが原則であるが、絵画、彫刻とも実際にこうした表現は困難なため、多くは四十手で表されている。新田大衆堂のなかの千手観音は、手の数は少ないが、他の千手観音同様それぞれ意味のある異なったものを握っており、さまざまなすべての願いをかなえてくれることを表している。

